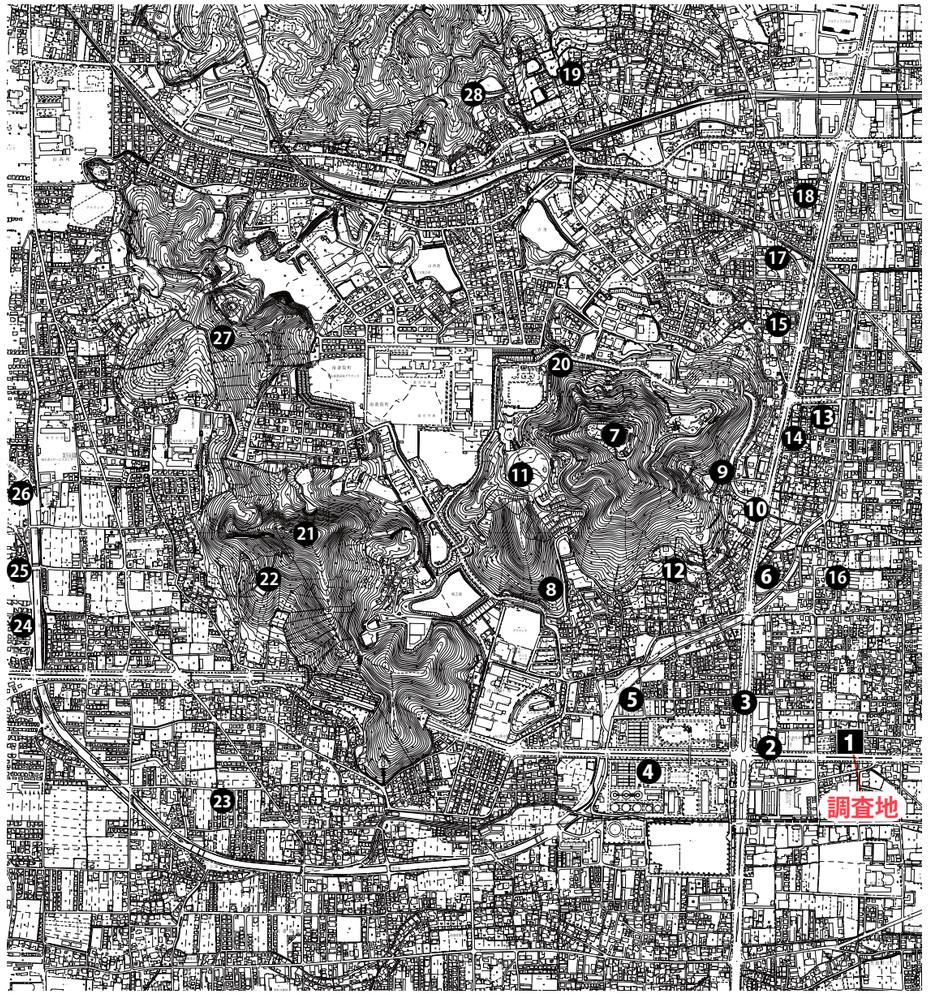
南江戸下沖遺跡（みなみえどしもおきいせき）

発掘調査場所：松山市南江戸二丁目
発掘調査面積：１４０．０６㎡
現場作業期間：平成２７年９月７日（月）～平成２７年１０月８日（木）

１．はじめに

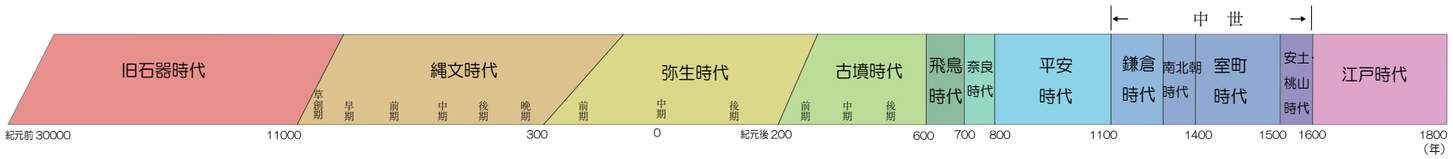
調査地は、松山平野西部に位置し、石手川によって形成された扇状地の扇端付近にあり、氾濫原上の標高 10 mに立地しています。南江戸地区やその周辺は、下水処理場、河川、環状線の建設や宅地開発に伴う発掘調査により数多くの遺跡が見つかっています。特に調査地の西方約 500m の古照遺跡からは日本でも有数の古墳時代前期の農業灌漑用『堰（せき）』が見つかっています。また、調査地の北方約 400m には辻町遺跡があり、古墳時代の竪穴建物や祭祀遺構のほか、中世の掘立柱建物、井戸、土坑墓などが見つかっています。そして、西方の古照遺跡、松環古照遺跡、古照ゴウラ遺跡では、古代から中世に至る集落関連遺構が数多く検出されています。このうち古照ゴウラ遺跡では中世の溝、土坑、柱穴を検出したほか弥生土器や古墳時代前期土器などが出土しています。さらには、調査地の西約 1km にある大峰ケ台丘陵には弥生時代の集落のほか、古墳時代前期の朝日谷２号墳をはじめ客谷古墳、大池東古墳など数多くの古墳が分布しています。



1. **南江戸下沖遺跡**
2. 古照ゴウラ遺跡
3. 松環古照遺跡
4. 古照遺跡
5. 南江戸くじゅ目遺跡
6. 南江戸桑田遺跡
7. 大峰ヶ台遺跡１次・４次調査
8. 大峰ヶ台遺跡３次調査（客谷古墳群）
9. 大峰ヶ台遺跡６次調査
10. 大峰ヶ台遺跡８次調査
11. 大峰ヶ台遺跡９次調査（大池東古墳群）
12. 大峰ヶ台遺跡 10 次調査
13. 朝美辻遺跡１次調査
14. 朝美辻遺跡２次調査
15. 朝美澤遺跡２次調査
16. 辻町遺跡２次調査
17. 親和園前遺跡
18. 松環美沢遺跡
19. 衣山大塚北遺跡
20. 朝日谷２号墳（大峰ヶ台７次調査）
21. 岩子山古墳
22. 斉院茶臼山古墳
23. 北斉院地内遺跡
24. 斉院鳥山遺跡
25. 宮前川北斉院遺跡
26. 宮前川別府遺跡
27. 御産所権現山古墳
28. 衣山西ノ岡古墳

周辺遺跡分布図

時代区分



２．調査の概要

地表面下約 0.7 m付近で、鎌倉時代から室町時代の遺構を検出しました。

検出遺構：溝６条、土坑８基、柱穴 73 基、鋤跡 15 条、性格不明遺構３基（古墳時代、鎌倉時代～室町時代）

出土遺物：弥生土器（弥生時代）、土師器（古墳時代、鎌倉時代～室町時代）、須恵器（古墳時代）、陶磁器（鎌倉時代～室町時代）

３．わかったこと

今回の調査において、主に鎌倉時代から室町時代の集落が存在していることが分かりました。

１区から３区で見つかった東西方向と南北方向に延びる浅い小さな溝は形状や方向などから住居の空間を画する溝と考えられます。柱穴は調査区全域で見つかっており、調査区外に展開する掘立柱建物の存在が想定されます。鋤跡は２区を中心に南北方向に延びており、調査地及びその周辺には畑が存在していたことが窺えます。円形の土坑はその形状から貯蔵施設と考えられます。性格不明遺構は、調査区外に延びており現段階では全容は不明ですが人為的に掘られたものであります。中世村落は人が住む居住域と農作物を作る生産域、埋葬施設がある墓域で構成されていますが、調査地は生産域の後、居住域となったことが遺構の切り合いなどからわかりました。中世の遺構を検出した土の中には、古墳時代の土器が含まれており、調査地周辺には古墳時代の集落跡が存在していたことを示すものです。

南江戸地区は、県下でも有数の中世村落の景観が復元できる遺跡が数多くあり、今回の調査において、その村落がさらに南東域に広がることが分かる貴重な資料を得ることが出来ました。今後は検出した遺構から集落構造を明確にすることが整理していく上での重要な課題となります。

〔用語解説〕

・遺構（いこう）　住居や溝・土坑などの不動産的な人々の活動の跡。
・遺物（いぶつ）　土器・石器など過去の人々が残した動産的なもの。
・遺跡（いせき）　遺構や遺物が見つかる場所。

＜遺構名称＞

・溝（みぞ）　水などを流す目的で、地面などを線状に掘ったもの。
・土坑（どこう）　貯蔵穴、ごみ捨て穴、落とし穴など。
・柱穴（ちゅうけつ）　柱を建てるために掘られた穴。
・鋤跡（すきあと）　畑を鋤いた小溝。
・性格不明遺構（せいかくふめいいこう）　用途が不明な遺構。
・現代坑　現代に掘られた穴。

＜遺物名称＞

・弥生土器（やよいどき）　色調は赤褐色などで、摂氏 600 ～ 900℃で焼かれた素焼きの土器で、弥生時代に使われた。
・土師器（はじき）　弥生土器の流れをくみ、古墳時代から江戸時代まで使われた赤褐色の素焼きの土器。
・須恵器（すえき）　青灰色の硬く焼き締まった土器で、古墳時代の中頃に朝鮮半島から伝わった焼き物。
・陶磁器（とうじき）　陶器と磁器の総称。陶土や良質の粘土を主原料とし、これに長石や石英を混ぜて焼いた物。

遺構検出作業風景（東より）
発掘調査は人の手により行われます。掘るだけでなく、図面や写真に記録しながら調査（記録保存）しますので、手間がかかります。

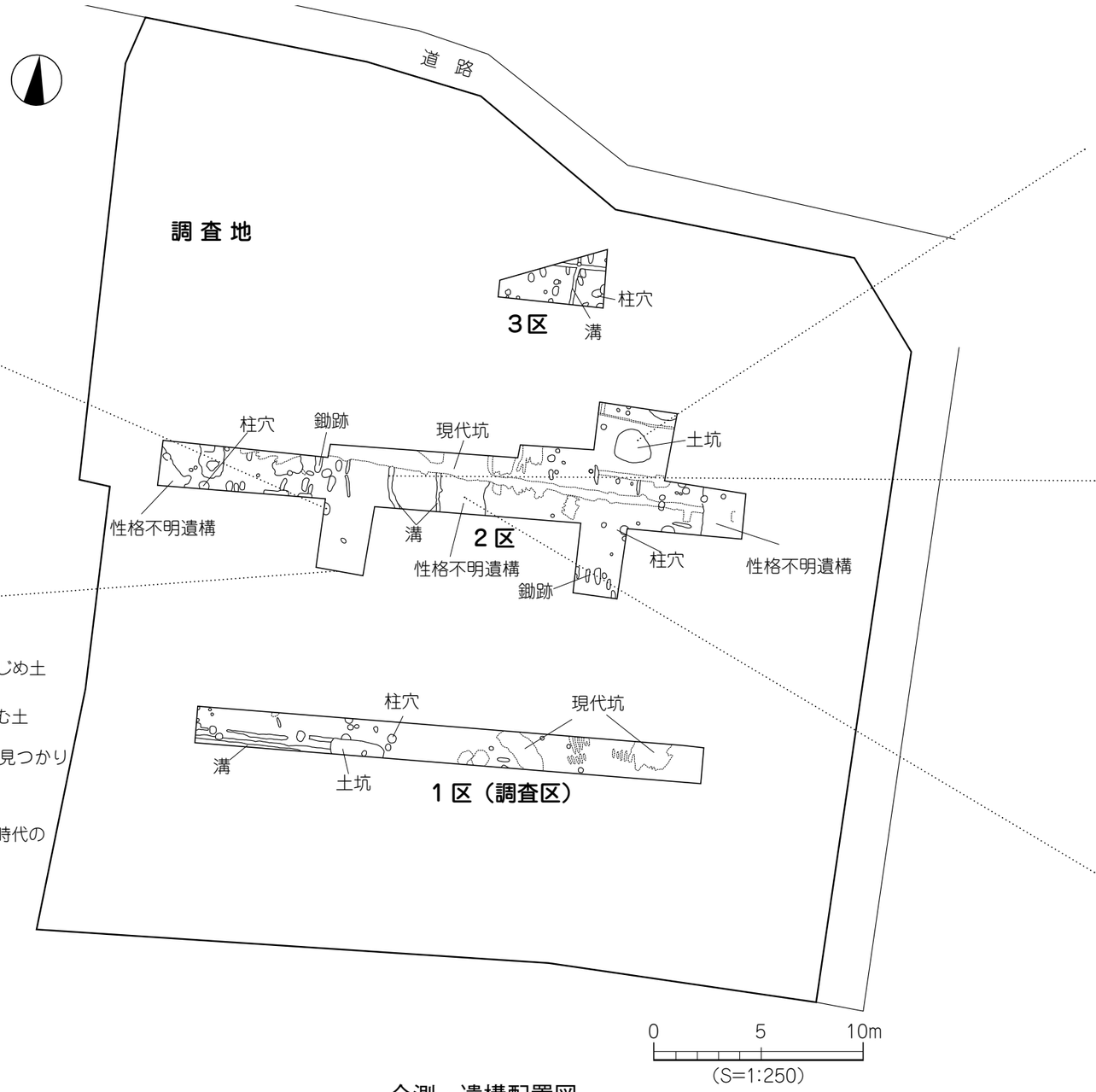
１区～３区の遺構完掘状況（北西より）

１区遺構完掘状況（西より）

２区東側、３区の遺構完掘状況（西より）

柱穴から出土した土師器の小皿（東より）

地層の堆積状況



全測・遺構配置図

土坑内の堆積土層（南東より）

土坑内から土器片に混じり出土した焼土（西より）

性格不明遺構から出土した土師器片（北より）